

## 横浜国立大学建築学コース平成 25 年 3 月 22 日卒業式 挨拶

水煙会会長の長崎でございます。この度はご卒業の運び、誠におめでとうございます。

開学以来の諸先輩、全員が所属している『水煙会』の会員約 4000 名を代表いたしまして、皆様方にご卒業のお祝いを申し上げます。それと先月に皆様のお手元に『水煙会』のリーフレットをお配りさせて頂きましたが、本日も改めて配布させて頂きましたので、後程少しご説明させて頂きたい。

昨年この席では東日本大震災の事もありましたので、皆様に旅立ちの贈り物として『絆』という言葉をお送りいたしました。本年は聊か個人的ですが、私の座右の銘でもあり、自分の行動指針を確認するチェックリストとしております『天・地・人』という言葉をお送りしたいと思います。この言葉は一昨年の NHK 大河ドラマのタイトルになっておりましたので、多くの方がご存じだと思います。是非、この期に『天の時』『地の利』『人の和』と覚えておいて下さい。

まず『天の時』は当にタイミングの問題でその計画が適切な時期を捉えているのか？という事です。

次に『地の利』は環境、地域、立地、地勢と言った点で適合しているか？

そして『人の和』はその仕事に係る多くの人達と良好な関係を保持しているか？という点です。

此処におられる方々はほとんどが大学院へと進まれると伺っておりますが、いずれ実社会で都市・建築系の仕事に携わるでしょう。其の時に是非この言葉を思い出して、取り組もうとしている計画が『天の時』を得ているのか、『地の利』を貰えているのか、『人の和』を得て社会的に受け入れられる状況にあるのか、と言った点を確認されると宜しいかと思っております。

我々の取り扱う都市や建築という仕事は、企画から設計、建設、利用、維持管理、改修、増改築と大変長い期間、一つのプロジェクトに関与をして行く事になります。最初良かったものが、途中で良くないものになってしまう事などは多々あります。ですから、絶えずこの 3 点で『事の是非を問い直す必要がある』と思っております。

有名な新聞のコラムに『天声人語』と言うのがありますが、肝心の『地』が抜けていて、コラムの内容も其れなりに理解できるのですが、何となく『地の声』が足りないような気がしております。皆様の様な建築を創る時の纏め役を担当する者は、まさにその密やかな『地の声』を掬い上げる力が必要で、その為には自分自身もそうでしたが、色々な経験を持った方々から適切なアドバイスが必要となります。故に、この大学に通った縁から結ばれる『水煙会の輪』を大切にすることを勧め致します。

皆様を今日まで育て呉れたご両親を始め、先生、兄弟、友人、多くの社会の人達に感謝の心を持つと同様に、皆様方は本日より栄光と伝統のある横浜国立大学で建築を学んだ『水煙会』の正会員です。その同窓の仲間を大切に、新しい時代に向かって大きく、鋭く、そして力強く、歩み出して行って下さい。

皆様のご健闘とご多幸を心より祈念申し上げます、『天・地・人』をお祝いの言葉にさせ戴きます。

おめでとうございます。

平成 25 年 3 月 22 日 (金)

水煙会・会長 長崎駿二郎

今まで学生諸氏に水煙会の存在や活動について適切な PR して来なかった事へのお詫びと再認識をお願いする。